テーブル①　保存期看護

テーマ：みんなで考えてみよう！CKD の透析予防指導

【企画内容】

昨年の交流集会では、CKD 保存期看護にかかわるみんなの声を聴こう　ー慢性腎臓病の透析予防で困っていることを話してみませんか？ーというテーマで、２施設の透析予防の実施状況を共有し、参加者と意見交換を行った。現在も各施設が工夫しながら透析予防に取り組んでいるが、患者への教育内容や外来の運営方法については、試行錯誤しているという声を聞くことが多い。

今回、透析予防指導を実施している２施設の実践を紹介し、透析予防を行う上での困りごとや疑問点、今後どのように取り組んでいきたいかを、参加者の皆様と意見交換したい。

＜タイムテーブル＞

・10：00～10：20　A 病院での透析予防指導の実践の紹介

・10：20～10：40　B 病院での透析予防指導の実践の紹介

・10：40～11：00　透析予防を行う上で、困っていることについての意見交換

・11：00～11：15　保存期教育のための今後のブラッシュアップにむけて

・11：15～11：30　まとめ

【準備物品・資料等】

・透析予防指導で使用している教育ツール

担当者：今村（宗像医師会病院）、不動寺（福岡赤十字病院）

協力者；加藤（聖マリア病院）

テーブル②　腎移植看護

テーマ：腎移植を含めた RRT 選択支援を考える　～他施設の腎移植看護の現状を知ろう！

【企画内容】

昨年度の参加者の背景として、基幹病院ではないクリニックのスタッフが多いことや、腎代替療法の説明の機会が少なく、3 つの療法を説明する際にどのように説明したら困っているという現状があった。また、ワークショップのアンケート結果では、「それぞれの病院の対応や問題解決をすることができて良かった」「新たな学びになった」「他の施設の方々との交流を通じ、新たな知識や関心が深まった」などの感想があり、他施設との情報共有により、RRT 選択支援時の説明や移植希望の患者対応においての疑問や不安の軽減につながったと考えられる。

基幹病院の腎移植患者対応に対する現状と RRT 選択支援の具体的説明内容などを共有しながら、他施設での腎移植の現状・疑問や不安についてや腎移植患者対応での困難感等について語り、意見交換する場としたい。

【タイムスケジュール】

１０：００～１０：１０	ファシリテーター紹介、参加者自己紹介
１０：１０～１０：２０	ファシリテーター２施設の腎移植の現状・患者説明時に使用している資料を提示し、RRT 選択支援時の情報提供の現状を説明
１０：２０～１０：３５	参加者施設の現状・問題・疑問点などを共有
１０：３５～１０：５５	ディスカッション
１０：５５～	まとめ

【準備物品・資料等】

ファシリテーターの施設で RRT 説明時に使用の資料等

テーブル③　腎臓リハビリテーション

テーマ：多職種連携でつなぐ腎臓リハビリテーション

【企画内容】

・腎リハは腎疾患に基づく身体的・精神的影響を軽減し、生命予後・QOL・社会復帰を改善することを目的とする長期包括的プログラムである。運動療法のみならず、食事・水分管理・薬物療法、教育、心理的サポートを含む多職種連携が不可欠であるといわれている。しかし現場では、業務の多忙さ、職種間の情報共有の難しさ、スタッフのマンパワー不足などの課題から、円滑な実施が難しい側面もある。今回、多職種連携での腎臓リハビリテーションの取り組みを紹介し、参加者とともに議論・共有する場としたい。

タイムテーブル

10：00～10：30

1．A 病院での多職種連携への取り組み

1）運動療法の実践

◆多職種による医学的評価（病態・合併症・VS・症状・検査データ）、定期的な身体測定 IN-Body による評価(筋肉量、水分量、DW)

◆理学療法士による運動能力評価（QOL・ADL）

◆栄養士による栄養指導

◆SW との連携

◆理学療法士・看護師指導のもとで運動療法実施

2）患者・家族・医師・担当看護師による 1 回/年の面談、生活目標の確認

3）事例紹介

10：30～11：20

2, 意見交換

各施設での取り組み、現状、継続のための問題について

11：20～11：30

3. まとめ

【準備物品・資料等】

・事例紹介資料

担当者：松永、山口

テーブル④　医療安全・感染管理

テーマ：医療安全対策と５類感染症の対応

【企画内容】

10：00〜10：40

医療安全対策

上級医療安全管理者から再発防止策の１つである SHELL 分析を使って、インシデント報告（レポート等）から医療安全対策を学ぶ。想定されたケース事例に対して、P-mSHELL モデルを使って分析してみる。また、さまざまな事例に関して、参加者間での情報交換を行う。

10：40〜11：20

感染管理

５類感染症（インフルエンザ・新型コロナ等）の感染対策について、各現場（臨床）での事例をもとに参加者全員でディスカッションを行う。（スクリーニング・PPE・隔離期間などについて）アドバイザーとして感染管理認定看護師からの意見も伺う。

11：20〜11：30

まとめ

【準備物品・資料等】

・医療安全ポスター

・SHELL 分析説明資料

・透析医療における医療安全のための提言

・感染管理ポスター

・透析施設における標準的な透析操作と感染予防に 関するガイドライン（六訂版）

・その他（各臨床事例等）

担当者：田村、田原

テーブル⑤　緩和ケア

テーマ：腎不全患者における緩和ケア

【企画内容】

＜参加者＞

看護職、患者（未定）

＜目的＞

２０２６年度診療報酬改定以降の施設での取り組みや腎不全患者の緩和ケアの実践、困りごとなどを自由に語り合う

＜スケジュール＞　※小グループのファシリテーター：吉村・中村・森下・元嶋

10：00～　　タイムスケジュールの説明（司会より）

10：05～10：25　「Ａ病院の取り組み～腎不全患者を緩和ケア病棟に受け入れるための

システム作りおよび看護の実際について～」

10：25～11：10　小グループに分かれて意見交換（１グループ：５～８人程度）

・自施設における腎不全患者の緩和ケアの取り組み、緩和ケア実践における困りごとなど

11：10～11：25　　各グループでの意見を共有

11：25～　　まとめ

※患者参加の場合は、なるべく一つのグループに偏らないように分かれていただく

腎不全に伴う苦痛や腎不全患者に対する緩和ケアに期待したいことなど、自身の体験を踏まえて自由に語っていただく

★各グループにファシリテーターを配置しディスカッションの内容をメモに残す

＜配布物＞

なし

＜準備物品・資料等＞

・２０２６年度診療報酬改定資料、高齢者のための保存的腎臓療法

担当者：吉村、中村

テーブル⑥　福腎協（患者会）

テーマ：一緒に聴こう、考えよう！　～患者の声から考える腎不全医療と看護～

【企画内容】

患者さんや家族が、病気や治療、生活の中で感じていることを共有し、その声を医療や看護、多職種との協働にどのように活かしていくかを考える。

患者・家族・医療者・多職種が同じテーブルを囲み、それぞれの立場から自由に語り合うことで、お互いの思いや考えを知り、これからの腎不全医療と看護、患者支援についてともに考える機会とする。

・患者さんや家族による体験発表を行い、実際に病気や治療とともに生活する中で感じていることや、医療者に伝えたいことについて話していただく。
その体験をきっかけに、患者・家族・看護師・多職種が同じテーブルで自由に語り合う。

主なテーマとして、

・私や家族が、医療者に知ってほしいこと、伝えたいこと、考えてほしいこと
・治療を続けながら生活する中で、困っていることや支えになったこと
・患者さんが大切にしている生活や思いを、医療や看護にどのようにつなげていけるか
・患者会、医療者、多職種が協力してできることは何か

などについて、それぞれの立場から話していただく。

患者さんや家族から直接声を聞くことで、医療者側だけでは気づきにくい患者の生活や思いを知り、「患者さんとともに考える医療・看護」について参加者全員で考える場としたい。

★みなさんへ個人情報保護の注意をお願いする。

【タイムスケジュール】

10:00～10:10

1. 福腎協（患者会）の紹介・趣旨説明

・福腎協の活動について簡単に紹介（福腎協より）
・患者会やピアサポートの役割について
・今回のワークショップの目的について説明

10:10～10:35

2. 患者さん・家族による体験発表

発表内容は、

・病気や治療とともに生活して感じていること
・治療を続ける中で困ったこと
・医療者の関わりで支えになったこと
・医療者に知ってほしい、伝えたいと思っていること
・これからの医療や看護に期待すること。

など、発表者自身の経験を自由に話していただく。

10:35～11:20

3. 意見交換・語り合い

患者さん・家族の体験発表を受けて、参加者全員で自由に語り合う。

・体験発表を聞いて感じたこと
・患者さんと医療者との間にある思いや認識の違い
・患者さんの声を日々の医療・看護にどう活かせるか
・患者会と医療者、多職種がどのようにつながることができるか
・患者さんが治療を続けながら、その人らしく生活するために何ができるか

などについて、答えを出すことを目的とせず、それぞれの経験や思いを語り合う。

4. まとめ・振り返り

ワークショップを通して感じたことや気づいたことを、参加者同士で自由に意見交換する。
患者さんを「支援される側」としてだけ捉えるのではなく、患者・家族・医療者・多職種がそれぞれの経験や知識を持ち寄り、ともに腎不全医療と看護を考えていくことの大切さを共有して終了する。

【準備物品・資料等】

・福腎協の活動紹介資料
・患者さん・家族の体験発表資料
・福腎協会報誌等

担当者：林田、桐明